



神宮寺便り

今月で今年も終わり。神宮寺では大晦日に除夜の鐘突きを行います。今年最後を鐘突きで終わり納めませんか？整理券を境内にて無料配布しています。お独りでも、またご家族、ご友人と御参詣下さい。

お香について

良啓



お線香と言うと何を連想されますか？やはり、平御香でしょうか。ところがこの平御香、厳密に言えばお香ではありません。元々、香とは香りの成分が含まれている事が必要です。平御香の原料は車麩を作る際に出るデンプンとのりだけです。ですから、平御香は香（こう）と書きますが香りがありません。一方、ヤマト香はカバウコウと呼ばれ、香りの成分が練り込まれ、焚くと匂いがあります。ちなみに、数年前から県内の業者が香り付き平御香というものを製作販売しています

古代インドでは、体臭消しやバラモン教の神々を供養する際にお香を焚いていました。この習慣が転じて、仏様に良い香りをお供えして良い功德を得ようと考えられました。ですので、仏教において香りは重要です。これが西洋に渡れば、香水になります。

さて、お香にはどんな形があるのでしょうか。一般的なのは、線香。そして、焼香（抹茶）と呼ばれる香木を粉末状にしたもの。練り上げた形の丸香など。

種類としては、一般的なのは白檀、沈香、伽羅です。この中で上位にランクされるのが伽羅。本来伽羅と沈香は同じ物ですが、香りや油質が格段に良いものを沈香の中でも特別に伽羅と呼びます。白檀は伽羅・沈香に比べると庶民的です。これらは香木から出来ていますが、他にも植物の皮や実、根などを原料にしている物もあります。

是非供養の際には、自分の好きな香りを探してみてくださいいかがでしょうか。

弘法大師のことば

裕俊

蓮を観じて自浄を知り 菓を見て心徳を覚る。

般若心経秘鍵(定三・九)

「蓮華の花が泥中から生じて泥に染まらない姿を観て、我々の心も本来的に清浄である事を知り、一つの小さな木の実の中に根・茎・葉・花などを全て備えている様に、我々の心にも本来的に優れた特質が具わっている事を覚る。」

日常生活の中で、他者との関わりによって様々な影響を受ける事があります。良い影響ばかりならよいのですが、なかなかさうもいきません。悪い影響を受けてしまう事も時にあるでしょう。そんな時、みんなやっているから、この人がやっているから、と周りに流されてはいないか、本来の自分を見つめてみてはいかがでしょう。

今月のお茶「京番茶」 奈緒子

神宮寺の本山は京都府にある東寺(教王護国寺)。文化庁によると、京都には寺院数が三〇七四寺、沖繩の寺院数は七七寺だそうです。

仏教の盛んな京都で愛されているお茶「京番茶」。京都の家庭で飲まれている庶民的なお茶です。

普通の番茶より特徴的な味と香り。強火で煎って仕上げる為、とてもスモーキーな香ばしさです。「煙草の味(ー)」と評されることもある様です。

沖繩も益々寒くなつて参ります。カフェインも少なめな「京番茶」でリラックスするのも良いですね。

※こちらで紹介したお茶は毎月、「神宮寺学ぶ会」にて提供させて頂いております。

12月の神宮寺

- 12/31 除夜の鐘突き 無料
- 整理券配布・・・22～0時
- 除夜法要・・・22時
- 鐘突き・・・22時30分

